

平成23年 12月 吉日

各 位

「かながわあんしん生活支援フォーラム」リーフレットについて（送付）

日ごろから、県政の推進にひとかたならぬ御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本県では、本年度、認知症サポーター養成促進事業を下記運営事務局に委託して実施しており、このたび、その一環として標記のフォーラムを、県内10か所にて開催することといたしました。

同フォーラムでは、第一部において、認知症を理解し、認知症の人や家族を見守る「認知症サポーター」の養成講座を、第二部・第三部において、地域の支え合いや高齢者介護への理解をテーマとした、著名講師をお招きしての基調講演と座談会を実施いたします。「誰もが安心して暮らしていける地域づくり」につながるよう、できるだけ多くの県民の皆様にご参加いただきたく存じます。

つきましては、1月開催分の同フォーラムのリーフレットを同封させていただきますので、配架・掲示・回覧等、広報周知への御協力を賜りたく、何卒よろしく願い申し上げます。

神奈川県保健福祉局 福祉・次世代育成部

高齢福祉課 高齢福祉グループ

TEL 045-210-4846

神奈川県「認知症サポーター養成促進事業」

運営事務局

株式会社 コモンズ21研究所

TEL 045-752-0211

かながわあんしん生活支援フォーラム in 横浜 ～ 今を輝いて ～

日時：2012年 **2月20日(月)** 14:00～16:40
(開場 13:30)

会場：**横浜市技能文化会館
多目的ホール**

定員：先着 300 名 (当日受付)

※定員に達した場合、ご入場いただけません
ので、予めご了承ください。

入場無料

手話通訳あり

女優・横浜夢座座長

五大 路子 氏



○ プログラム ○

— 14時 開演 —

第1部【認知症について】 認知症サポーター養成講座

講師
富田 克利 氏 (小規模多機能施設 ゆい青葉 管理者)

— 休憩 —

第2部【基調講演】 “今を輝いて”

講師
五大 路子 氏 (女優・横浜夢座座長)

第3部【座談会】

コーディネーター
桑原 寛 氏 (神奈川県精神保健福祉センター 所長)

対談者
五大 路子 氏 (女優・横浜夢座座長)

対談者
小林 俊一 氏 (公益社団法人 認知症の人と家族の会
神奈川県支部 副代表)

●会場への交通アクセス

- ・ JR根岸線 「関内」 駅 南口から徒歩5分
- ・ 横浜市営地下鉄線 「伊勢佐木長者町」 駅
出口2から徒歩3分



※会場へは公共
交通機関でお越
しください



会場住所：横浜市中区万代町2丁目4番地7

主催：神奈川県 (平成23年度 神奈川県 認知症サポーター養成促進事業)

(平成23年度 神奈川県立 平塚ろう学校 地域活性化コミュニケーション推進事業)

共催：横浜市健康福祉局

後援：公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部
特定非営利活動法人 神奈川県介護支援専門員協会
ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区
毎日新聞社横浜支局

協賛：エーザイ株式会社 / ファイザー株式会社



お問い合わせ:

平成23年度 神奈川県 認知症サポーター養成促進事業 運営事務局
(株)コモンズ 21 研究所 TEL 045(752)0211 FAX 045(752)0242

● **基調講演講師： 五大 路子 氏**（女優・横浜夢座座長）

横浜市出身。桐朋学園演劇科に学び、早稲田小劇場を経て新国劇へ。NHK朝のテレビ小説「いちばん星」で
主演デビュー。新国劇退団後も多数のテレビや舞台に出演して現在に至る。

ひとり芝居「横浜ローザ」では横浜文化奨励賞を受賞。1999年、自身が座長となり横浜夢座を旗揚げ。
TVK「失われた時を求めて」で平成11年度日本民間放送連盟の賞を受賞。2008年には横浜夢座によ
る地域文化の振興への功績が評価され、第29回松尾芸能賞演劇優秀賞を受賞。2011年第46回長谷川
伸賞を受賞。

現在、横浜夢座公演「野毛 武蔵屋」～三杯屋の奇跡～（3/2～7、ランドマークホール）の準備中。

● **コーディネーター： 桑原 寛 氏**（神奈川県精神保健福祉センター 所長）

1976年横浜市大卒。大学病院精神科、県立精神病院、地域公立総合病院の無床精神科外来などで精神科
医療に携わった後、平成3年より、神奈川県精神保健センターで地域精神保健にかかる取り組みを開始。
神奈川県衛生部保健予防課課長、神奈川県鎌倉保健福祉事務所所長を経て、平成14年4月から神奈川県精
神保健福祉センター所長。

同センターでは、今日、病者も障害者をも含む全ての地域住民の心の健康づくりと地域のトータルケア体制
の整備に向け、「人をつなぎ、地域をつなぎ、明日への一歩をつなごう」を合言葉に、心の世紀にふさわしい
「孤立させない地域づくり」に取り組んでいる。

● **対談者： 小林 俊一 氏**（公益社団法人 認知症の人と家族の会 神奈川県支部 副代表）

1963年（昭和38年）大学を卒業後ゴム製品の製造、販売会社に入社。
営業部に所属して仙台、大阪、福岡、広島、東京と転勤。その間結婚、子供2人を授かる。途中、子会社に
社長として出向し、再び親会社に戻り、2001年（平成13年）に東京で、38年間営業畑のこれといっ
て特筆すべき出来事もないサラリーマン生活を送り、無事定年を迎える。

妻がおかしいと感じたのは2001年（平成13年）。病院で、2003年（平成15年）若年性アルツハ
イマーと診断され、それ以降介護の日々。幻覚、妄想、暴力、徘徊等の症状が現われ、要介護1から5まで
になるのに4年間と、急激に重度化が進む。今は夫の顔も忘れ、自力では何も出来ない。昨年より特養に入
所。言葉を発することも出来ず、寝たきりの一歩手前の状況であり、家族として、毎日夕刻に食事の介護や
もろもろの世話をする為に、施設に通う日々が続いている。

